

第5回ソーシャルファームジャパン サミット in 大阪

特定非営利活動法人 コミュニティシンクタンクあうるず
〒080-0802 北海道帯広市東2条南4丁目10番地

助成事業の概要

(1) 目的: タイトル「ソーシャルファームが、地域、社会、日本を変える」

(2) 実地日時会場

■開催日: 平成31年2月16日14:00～18:00、17日9:30～12:00

■会場: シティプラザ大阪（大阪府中央区本町橋2-31）

(3) 実地内容

◇1日目 全体会

【基調対談】「ソーシャルファームってなに？」
ソーシャルファームジャパン 理事長 炭谷 茂氏
関西学院大学人間福祉学部 教授 牧里 每治氏

【実践事例報告】

① ソーシャルファームを推進する自治体の取組

○東京都の取組「東京都が目指すソーシャルファーム」

東京都 伊藤ゆう氏 都議会議員 都民ファーストの会

○大阪府の取組「大阪府が目指すユニバーサル就労とは～行政の福祉化から20年（仮）」

大阪府 奥村健志氏 大阪府福祉部福祉総務課長

○伊丹市の取組「認定就労訓練事業所への随意契約を活用した働く場の創出（仮）」

伊丹市 松尾勝浩氏 伊丹市役所暮らし・相談サポートセンター センター長

高木哲次氏 いたみワーカーズコープ理事長

② 全国や関西でのさまざまな取組

○北海道 農業との共生 宮島望氏 農事組合法人共働学舎新得農場 代表

○鹿児島 日本のジャルダンドコカーニュ 天野雄一郎氏 社会福祉法人 白鳩会

○大阪 農業で若者支援 太田光昭氏（株）泉州アグリ 取締役

○大阪 触法障がい者の社会復帰支援 石野英司氏（株）い志乃商会 代表取締役

○東京 精神障害があっても安心して自立 風間美代子氏 NPO 法人多摩草むらの会

◇2日目 分科会

○SESSION 1 テーマ: 地域のまちづくりにソーシャルファームを

登壇者: 山田 實 氏 NPO 法人 釜ヶ崎支援機構 理事長

「変わりゆく釜ヶ崎のまちとしごとづくり～釜ヶ崎支援機構のしごとづくりの取組」

村田 進 氏（社福）ライフサポート協会 理事長

「しごとづくり・出番づくりは地域を舞台に～ライフサポート協会の取組」

（ファシリテーター）福原 宏幸 氏
大阪市立大学大学院 経済学研究科 教授

「日本における就労支援施策の特徴～包摂型地域社会づくりの観点から」

○SESSION 2 テーマ: 公共市場にソーシャルファームを

登壇者: 岸 道雄 氏 立命館大学 政策科学部 教授

「公共調達における社会的価値とは」

～欧・米の事例を中心に～

五石 敬路 氏 大阪市立大学大学院創造
都市研究科 准教授

「生活困窮者・社会的脆弱層 働くこと
に困難を抱える人々を包摂するために」

～韓国の事例を中心に～

西口 禎二 氏 大阪府福祉部 次長

「大阪府における行政の福祉化の展開」

～自治体契約におけるさらなる可能性～

(ファシリテーター) 富田 一幸 氏 エ
ル・チャレンジ 代表理事

○ SESSION 3 テーマ：世界や韓国のソーシャ
ルファームから日本を見る

登壇者：寺島 彰 氏 (公財) 日本障害者リハ
ビリテーション協会 参与

竹村 利道 氏 (公財) 日本財団公益事
業部 国内事業開発チームシニアオフィ
サー

呉 世雄 氏 宇都宮大学 地域デザイン
科学部 コミュニティデザイン学科 講師
(ファシリテーター) 上野 容子 氏 東
京家政大学 名誉教授

○ SESSION 4 テーマ：ソーシャル F a r m(農
福連携) でソーシャル F i r mを目指せるか

登壇者：佐伯 康人 氏 農業生産法人メイド・
イン・青空

新井 利昌 氏 埼玉福興株式会社

中原 力哉 氏 (社福) 一麦会 ソー
シャルファームもぎたて代表

(ファシリテーター) 里見 喜久夫 氏
コトノネ編集長

1 日目：全体会では、法制度やソーシャルファ
ームの方向性を議論。現状の確認と次にすべく課題
を明らかに出来た。

報告会においては、全国の様々な取組を発表。
前半は、行政の支援による積極的なソーシャル
ファームの推進報告がなされ、今後の行政のあり
方の参考とされた。後半は、民間による様々な種
類の取組報告がなされ、各参加者、特にソーシャ
ルファームの事業者や目指している者のヒントに
なった。

2 日目：4 つの Session に分けてテーマ毎に
行われた。

Session1 は、「地域のまちづくりにソーシャ
ルファームを」報告者が報告の後村田氏のファシ
リテートで活発な議論が行われた。議論内容は多
岐に及びかなり興味深い分科会となった。

Session2 は「公共市場にソーシャルファ
ームを」と題し、富田氏がファシリテートし、報告者
が報告の後議論となった。主に先行している事例
の報告を受けながら、行政の優先発注の仕組みや
民需圧迫にならないしくみ、営利企業の CSR を
盛んにするための仕組みについて議論がされた。

Session3 は、「世界や韓国のソーシャルファ
ーム」と題して、上野氏を司会に報告が行われた。
特に韓国の社会的企業の発展の報告やダイバーシ
ティー就労の内容等、興味深い報告がなされ勉強
になった。

Session4 は、「ソーシャル Farm (農福) でソー
シャル Firm を目指せるか」と題して、里見氏を
ファシリテーターとし議論がされた。農業では十
分な収入を得にくい現状で、いかにして就労困難
な人達の賃金を確保できるのかという事を中心
に、興味深い議論となった。

交流会：1 日目の夜に同会場にて、ソーシャル
ファームの鹿児島白鳩会のソーセージ、埼玉の

事業の成果

大阪サミットでは、スタッフ講師等も含めると
384 人が参加。

埼玉復興のオリーブなどの食材を使い懇親会を行った。その中で2年前のつくばでのソーシャルファームサミットの事務局をしていた新保氏がソーシャルファームとして独立し企業を立ち上げた報告と、和歌山の麦の会による知的障害の人達のチンドン集団の素晴らしいパフォーマンスに会場は絶賛であった。

販売会：ソーシャルファームの商品販売会を2日間行った。大阪を中心に、北海道、福島からも参加。8カ所の販売が行われた。

会場や時間の関係で、最後のまとめの全体会は行われなかったが、中身は多く充実しており、次の展開に向けての課題やモチベーションに繋がった会であった。

■ 成果の広報、公表

成果については、ソーシャルファームジャパンサミット in 大阪の実行委員会特設ホームページ、及び Facebook にて随時公開。また、今回議員や行政関係者、大学研究者の出演や参加も多かったことにより、各自の報告書や HP、Facebook などで報告もされている。

他に報告集を作成印刷し、関係団体に配布する。

■ 今後の展開

第一回は北海道新得で173名参加、第二回は滋賀県で342名参加、第三回はつくばで268名、第4回横浜で80名、今回の第5回の大阪も予定人数を大幅に超える368名の参加となった。この間の参加者累計は1200人を超える。

これは、日本におけるソーシャルファームへの興味と考えられる。また、参加した研究所がその後の研究課題とし、論文や報告を書くことも増えた。

今後も、このような大会等を開催し、理解者や賛同者を拡げると共に「日本におけるソーシャルファームのあり方」を研究し、定着させるようにしたい。それこそが、就労困難者や生活困窮者の支援だけではない、就労という自立の道のひとつである。

今回は、交流会において、来年度は鹿児島で開催するという宣言を核になってくれる事業所からももらった。今回は、整理の意味での議論や提案が多かった。次回は、これを次いで、混沌たる物の中から確立されたものを創り出せることを期待する。